

令和5年度 第3学年 授業改善推進プラン

昭島市立拝島第二小学校

	指導の実態及び課題	具体的な授業改善策
国語	<p>○自分の意見や考えをもち、それらをクラス全体に発表したり、広めたりすることが難しい児童がいる。</p> <p>○主語と述語の関係や、接続する語句と指示する語句の役割について、理解が十分でない。句読点の使い方も含め、基本的な文章の書き方や、接続詞や指示語を適切に使って文章を書くことに課題がある。</p> <p>○文章の内容を読み取ったり、段落のまとまりを意識して大まかな構造を読み取ったりすることが苦手な児童が多い。</p> <p>○学習した漢字の定着を図るため、漢字ドリルを使い小テストを行っているが、定着が見られない児童が一定数いる。</p>	<p>・少人数のグループで話し合う場面を意図的・計画的に取り入れ、話し合い活動を実施していく。友達のを聞いて参考にしたり、小グループ内で自分の考えを伝えたりすることで、話して表現する力を高める。</p> <p>・朝学習の時間を活用して、短い説明文の模写（10チャレ）を繰り返し継続的に行う。また、全教科的に自分の考えを説明したり、振り返りを書いたりする機会を設けることで、文章の基本的な書き方を習得する。</p> <p>・朝学習の時間を活用して、短い説明文を使った読み取りや、自分の考えを他者へ伝える学習（10チャレ）を継続的に行う。また、説明文、物語文の学習で文章構造図や小見出しを丁寧に指導し、段落の構造や文章の内容を捉えられるようにする。</p> <p>・児童が既習の漢字を使う場面を設定する。また、漢字を丁寧に指導する時間も設定する。漢字を覚えて書くことが苦手な児童も多いため、個々に応じた支援を行う。</p>
算数	<p>○目的に応じた単位で、量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることに課題がある児童が多い。</p> <p>○波及的繰り下がりのある計算を正確にできない児童が多い。</p> <p>○文章問題では、何が分かっているのか、何を問われているのか、どういう場面かが理解できないため立式できず答えを求められない児童がいる。</p>	<p>・1kmを実際に歩くなどの、実感を伴った学習を積極的に取り入れしていく。</p> <p>・数カードによる操作の活動を繰り返し行い、数に対する感覚を身に付けさせる。また、百の位から十の位へ繰り下がる考え方は、十の位から一の位への繰り下がりと同じ考え方で処理できることに慣れさせる。</p> <p>・問題文を読む際には、何が分かっているのか、何を求める問題なのか線を引きさせて考えさせたり、場面を図に表して考えさせたりして、立式させる。練習問題や思考力・判断力・表現力を問う自作テストなど、習得した知識を活用する問題を繰り返し取り組ませる。</p>
理科	<p>○観察をするときに、興味・関心をもって対象物を見るが、全体を大まかに見て描いたり、特徴を捉えるべき部分を小さく描いたりして、ポイントを押さえて観察する児童が少ない。</p> <p>○見通しをもって観察、実験に取り組む児童も増えているが、観察や実験を通して分かったことが自分の言葉で表現できていない児童がいる、</p>	<p>・観察の視点は、年間を通して同じ視点で指導する。また、観察カードの書き方を例示し、容器など観察対象以外のものを記録するのではなく、植物や昆虫の特徴が分かるように文章にまとめたり、絵に表現したりして記録するように指導する。</p> <p>・何を知りたいのか、確かめたいのかを明確にして、問題を設定して、予想を立て、観察・実験を行う。その結果の整理、考察等、各段階を押さえ、何が分かったのか、確認しながら指導をする。特に、問題づくりを児童の思考・言葉で立てる。</p>
社会	<p>○めあてに合った情報を資料から探したり、正確に読み取ったりすることができない児童がいる。</p> <p>○個別の情報を理解することはできるが、それぞれの情報を関連付けたり、統合してより高次な思考をしていくことに課題がある。</p>	<p>・めあてを確認し、どんな情報が必要なのか、そのためにはどの資料を活用すればよいかを確認する時間を設ける。また、自分が調べたことは、どの資料のどの部分から得たものなのかを書いたり発表したりする習慣を付けさせる。</p> <p>・グラフや表など、基本的な資料の見方は全体で確認する。そして、それぞれの資料（連続テキスト、非連続テキスト）を比較したり、関連付けたりする場面や発問を多く設定し、抽象的な理解や概念的な理解へつなげていく。また、学習を振り返る時間を設定し、学習内容と日常生活、自分の学び方等について振り返る習慣を身に付けさせる。</p>
音楽	<p>○リズム感をもって歌ったり、お互いに聞き合ったりすることで表現する意識を高めるように指導しているが、言葉のまとまりや意味を理解して歌唱表現する児童は少ない。</p> <p>○リコーダー演奏は、リコーダーの基本的な吹き方や音色に注意させて指導している。基本的な技術習得に加え、互いの音色を聞き合う指導を行っているが、不十分な児童が若干名いる。</p>	<p>・歌詞の意味を考えたり、言葉のまとまりを意識したりして、工夫して表現できるように各題材の中で指導する。</p> <p>・息づかいや音色に対する意識を高めさせ、音色を自分でコントロールできるように、その方法を児童に発見・共有させる。</p>
図画工作	<p>○絵の具に混ぜる水の量を調整することや、下の色や隣の色が乾いてから塗ることを指導しているが、適切に絵の具を使って描いたり塗ったりすることができない児童がいる。</p> <p>○豊かで面白い発想をする児童が多いが、表現技術の未熟さから、描いたものが何かが伝わりにくい児童が見られる。</p> <p>○初めて使う金づちで、指を打ってしまった児童が1割程度いる。</p>	<p>・一斉指導で実演したりすることで、絵の具が乾いてから隣の色を塗る、色を重ねる等の指導を行う。また、こまめに机間指導を行い、絵の具の使い方に慣れさせる。</p> <p>・自分の思いを形にすることができるよう、描画材の掲示資料を活用したり、実際に小さなサイズの紙などを使って「お試し」をさせたりする。</p> <p>・初めて使う金づちの指導の際は、教師が実演するところをよく見させる。また、ケガをしない使い方について、分かりやすく指導する。状況に応じて、担任にも授業に入ってもらい、複数で机間指導を行う。</p>
体育	<p>○中学年になり、得意不得意な種目によって差がはっきりしてきた。特に、器械運動やボールを使った運動は、日常的な経験の差が大きく反映されている。</p> <p>○運動全般に苦手意識をもち、体を動かすことに積極的になれない児童がいる。</p>	<p>・どの領域においても、段階的な指導を意識して行う。動きのポイントをはっきりと明示することで、児童間でこつを伝え合わせるとともに、上手な子の動きを見るときに参考にさせる。</p> <p>・休み時間に外遊びを促し、継続的に体を動かす習慣をつけることで、持久力の高まりを目指す。個々の目標に向かって取り組める活動や、個々のレベルに応じて活躍できる場を設ける。</p>
道徳	<p>○道徳的価値となかなか実行できない人間の弱さとの間で葛藤する気持ちを、自分事として捉えることが難しい児童がいる。</p> <p>○道徳の授業で学んだことと、自分の生活を結びつけて振り返ることができない児童が多い。</p>	<p>・教材に自己投影するだけでなく、友達との意見交流を通して、他人の考えに触れる機会を増やし、様々な考え方があることに気付かせる。</p> <p>・振り返りの際に、「今までの自分の生活を振り返った時、今日の学習で考えたことに関わる部分はあるか。」「今日の学習で考えたことを、今後の生活にどう生かしていくか。」という視点で、振り返りを書かせる。</p>
外国語活動	<p>○A L Tの発音を注意深く聞くなど、意欲的に活動しているが、何について話しているかを理解できずに、活動に参加するのが難しい児童がいる。</p>	<p>・A L Tの説明だけでは難しい場合には、T Tの教員がジェスチャーや簡単な単語を使って解説することで、活動に取り組みやすくする。</p>
市民科(総合)	<p>○昭島市民科(総合的な学習の時間)と自分たちの生活が関わっているという意識はもっているが、自分たちの課題について考え、それを解決していこうという意識は低い。また、SDGsとの関連性についての意識も低い。</p> <p>○事実認識はできるが、意味認識や価値認識の段階までは至っていない。</p>	<p>・SDGsの概要や日本、世界の課題を知る機会を確保し、自分たちが抱える課題と関連付けることによって、課題意識を強くもてるようにする。その上で、学習計画を児童と共につくり、児童が主体的に取り組めるようにする。</p> <p>・事実認識をしっかりと行えるように、体験活動を多くしたり、学年だよりや保護者会を活用したりして、地域の活動への積極的な参加を促していく。また、児童が調べる情報について教員が整理し、補助資料などを事前に準備する。授業では、特に「整理・分析」の場面で、複数の情報を比較・関連付けて考える時間を設定したり、教員が「なぜ」「どうして」という発問を意図的に使ったりして、事象の見方や考え方を養っていく。</p>
特別活動	<p>○学年やクラスで決めた役割や約束を、責任をもって取り組めなかったり守れなかったりする児童がいる。</p> <p>○学級力スタンダードの結果を基に解決策や改善策を話し合い、学年・学級で取り組むことを決め、実践を重ねてきた。年度当初の課題は解決に向かっているため、新たな目標の設定が必要である。</p>	<p>・自分の役割や行動を振り返り、どのようなことに気を付ければよいか対策を立てる。</p> <p>・学級力スタンダードや学級会の振り返りを通して、その都度、課題の解決に向けた取組内容を決定し、実践に移していく。また、行事や学年・学級活動の際には、必ず「学年目標・学級目標」を基盤として、計画、実行、振り返りのプロセスを踏む。</p>